

報道関係各位

2021年5月17日  
東京医科大学

東京医科大学分子病理学分野の黒田雅彦主任教授の研究チームが  
HPV が関与しない子宮頸がんの発症メカニズムを解明  
— 世界ではじめて子宮頸部前がん病変のモデルマウスの作製に成功 —

## 【概要】

子宮頸がんは、HPV ワクチンの登場により、世界的には減少傾向にありますが、未だに多くの患者さんがいます。国内では、毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3,000人が死亡しています。この子宮頸がんの新たな発症メカニズムを東京医科大学（学長：林由起子／東京都新宿区）分子病理学分野の黒田雅彦主任教授の研究グループが解明しました。

この成果は、HPV ワクチンが無効な HPV 陰性の子宮頸がんに対する新たな、新たな治療法の開発につながる可能性があります。この研究は日本学術振興会科学研究費補助金並びに文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の支援のもとで行われたもので、その研究成果は国際科学誌 *Oncogene* (Nature Publishing Group) のオープンアクセス論文として2021年5月4日付で公開されました。

## 【本研究成果のポイント】

- HPV E6/E7 の発現とエストロゲン受容体シグナリングが子宮頸がんの発症に重要と考えられてきました。しかし、今回 HPV E6/E7 の発現がなくても、human wings apart-like (WAPL) の高発現でエストロゲン受容体シグナリングが活性化することが示されました。
- 子宮頸がんの新しい標的となる、WAPL によって活性化するエストロゲン受容体シグナリング関連分子を同定しました。
- 世界ではじめて、医薬品開発に利用可能な HPV E6/E7 が関与する子宮頸がんの前がん病変（子宮頸部上皮内腫瘍）のモデルマウスの作製に成功しました。



**○本研究に関する問い合わせ先**

東京医科大学 分子病理学分野 主任教授 黒田雅彦

TEL: 03-3351-6141

E-mail: kuroda@tokyo-med.ac.jp

**○プレスリリースに関するお問い合わせ**

(学) 東京医科大学 企画部 広報・社会連携推進室

TEL: 03-3351-6141 (代表)

E-mail: d-koho@tokyo-med.ac.jp